

助け合いの輪でつなぐ：原山台校区「隣保共同」の物語



【合言葉】隣保共同（りんぼうきょうどう）

隣近所が役割を分担し、力と心を合わせて助け合う精神

原山台校区に伝わる地域の合言葉。誰かが困っていたら放っておかない、地域の強い絆を表しています。



【発災直後】安否確認は「共助」の第一歩



	確認	未確認	その他
2741			
2748	✓		
2740			
2750			
2747			
2741			
2749			
2744			



状況を安否確認表へ記録し、自治会長等へ報告

【救助・介助】情報の集約と協力



可能な範囲で、皆で力を合わせる。専門家がいなくても、近隣住民が纏まることで、一人ではできない救出活動が可能になります。



閉じ込められた隣人や、動けない高齢者を救助

【集団避難】支え合って指定避難所へ

一時集合場所から「集団避難」を開始、車いすの方や体の不自由な高齢者を住民同士でサポート。行き先は居住地区によって指定された「原山ひかり小学校」または「原山台中学校」へ。



【避難所運営】避難者は「運営の主役」

避難所は与えられる場所ではなく、自分たちで「作る場所」



できる役割を分担し、SOSを出し合う。避難者は自主運営の主体として参加します。